

「学長のことば」

2025 年 3 月 18 日

中 野 敬 一

神戸女学院大学を卒業される皆さん、大学院を修了される皆さん、おめでとうございます。また、ご家族、ご関係の皆様、本日は誠にありがとうございます。心よりお慶び申し上げます。

卒業生、修了生の皆さんは、日々研鑽に励み、所定の課程を修められました。その努力を称えます。神戸女学院大学での経験は皆さんの今後の人生を支えてくれるでしょう。努力して得たものは皆さんの力となっています。存分に活かしてください。その力を活かし用いる時期や機会は人によって異なりますが、自分に蒔かれた種が成長し、花開くときがあることを信じていてください。

さて、私たちはいま大きな変化が起きている時代に生きています。いつの時代においても、同様のことは言われてきたのですが、とくに AI による新たな革命は驚くべきものです。これまでとは比較できないほどの激しい変化が起こり、私たちの想像を遙かに超えた未来が待っています。もちろん何事にも両面がありますので、良い意味での変化は大いに期待できますが、逆に不安や懸念されることも多々あります。

加えて、日本における少子高齢化や国際社会の変遷、地球規模の環境問題等を考えるとますます将来を予測することが難しくなっています。さらに自然災害や再びコロナウイルスのようなパンデミックが発生する可能性もあります。私たちの未来が単純に明るいとは言えないでしょう。しかし、私たちには希望があるのです。

たとえば、コロナ禍を思い出してみてください。私たちはあの事態をなんとか乗り切ることができました。その理由にはワクチン接種や緊急事態宣言下における行動抑制などが挙げられます。ただし、それらは一面に過ぎないと思います。私たちが直接目にはしていない多くの方々の献身的な働きがありました。

エッセンシャルワーカーと呼ばれる社会における不可欠の仕事をしている人たちの存在は特筆すべきことでしょう。医療従事者や介護士、警察官や消防士、食料品の販売業、公共交通機関の従事者、ゴミ収集業者…など多くの方々の働きがあったからこそ、私たちは生活を継続することができたのです。文字通り命がけで働いてくださった方々には頭が下がりました。

教育現場でも幼稚園や小・中・高校、大学の教職員はそれぞれの現場を守ってくださいました。本学でもとくに職員の皆さんが感染のリスクがある中でも毎日大学に来て、オンライン授業を始めとする教育活動を支えてくださいました。

このように多くの人々が自分のことだけではなく、助けを必要とする他者や隣人のために力を尽くして下さったことを決して忘れてはならないと思います。

キリスト教では他者や隣人を大切におもうことを、「愛」と呼んでいます。このような愛がある限り、いかなる状況においても希望が生まれると私は思います。

「愛神愛隣」を学院の永久標語とする本学で学んだ皆さんには、愛の担い手となって行動をしていただきたいと願います。とりわけ弱い立場に置かれている人々や困難な状況にある人々のために何ができるかを考えてください。ここで学んだことがそのために用いられることを期待しています。そして、卒業後も学び続けてください。

新約聖書のフィリピの信徒への手紙(1章9節～10節)にはこのような言葉があります。

知る力と見抜く力を身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、
本当に重要なことを見分けられるように。

知る力がないと世の中で何が起こっているのか正確に把握することはできません。何故、戦争や紛争が起こっているのか、うわべだけの浅い知識しかなければ、誤った理解や判断をしてしまうことになります。偏った情報に流されて、誰かを非難することは新たな不幸を作り出すことに繋がります。知識を深め、ものごとの本質を見抜くことで、愛が豊かになり、本当に重要なことを見分けられるようになるという言葉を中心に留めておいてください。

どうぞこれからも学び続けてください。リベラルアーツ教育を受けた皆さんですから、物事を一方的に見るのではなく、視点を変えて多角的、多面的に捉えるように努めてください。

150年前、神戸女学院はこの国の女性の活躍を願って創立され、多くの素晴らしい卒業生を輩出してきました。私たちはその姿勢を変えることなく、皆さんを応援しつづけます。

皆さん、どうぞお元気で。私たちは祈りをもって本日、皆さんをこの学び舎から送り出します。お一人おひとりのうえに、またご家族・ご関係の皆様の上に神様の祝福が豊かにありますよう心から祈りつつ、私からのことばといたします。